

# 口腔外科手術時の State-Trait Anxiety Inventory による 不安度予測に関する検討 ～ form X と form JYZ による比較～

林田枝里子<sup>1)</sup>, 瀬戸 美夏<sup>1)</sup>, 濱崎 理恵<sup>2)</sup>,  
坂本悠三子<sup>1)</sup>, 喜久田利弘<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学医学部歯科口腔外科学

<sup>2)</sup> 福岡大学医学部麻酔科学

要旨：不安は非常に一般的な心理状態で、歯科治療において多くの人が経験している。口腔外科処置前患者の不安は高くなることが予測される。Spielberger らの状態-特性不安検査 (STAI) は状態不安・特性不安の評価に用いられる。不安を喚起する事象に対する一過性の状況反応を表す状態不安と、比較的安定した個人の特徴ともいえる特性不安を同時に評価することができる。我々は以前より STAI-form X (STAI-X) を用いて術前の不安を評価し、不安段階がⅣ以上の患者には精神鎮静法を併用するよう推奨している。近年、日本人特有の情緒を考慮した STAI-form JYZ (STAI-JYZ) が開発・発行された。当科では STAI-JYZ の使用を開始後、状態不安段階が高い患者が減少した。我々は STAI-X と STAI-JYZ の不安度の評価に差があるか否かを明確にし、差が生じている要因について考察を行った。状態不安に関しては、STAI-X では段階Ⅴの患者が最も多かったのに対し STAI-JYZ では段階Ⅲの患者が最も多い結果となった。特性不安に関しては両者で大きな違いは認められなかった。STAI-JYZ はいくつかの質問項目が追加されており、STAI-X よりも不安度の判定が低くなっていることに関係していると考えられた。今回の検討から、歯科口腔外科手術前の不安度予測には STAI-JYZ よりも STAI-X が適していると考えられた。

キーワード：口腔外科手術, 術前不安, STAI (form X, form JYZ)